

『第1回SSH理系女子育成プログラム及び第1回SSH校外学習プログラム』を開催しました

6月30日(火)、八戸工業大学において、同大学工学部工学科生命環境科学コース 教授 鮎川 恵理氏、同コース教授 小林 正樹 氏、同学科機械工学コース 教授 工藤 祐嗣 氏、同コース教授 太田勝 氏、感性デザイン学部感性デザイン学科 准教授 皆川 俊平 氏 を講師としてお迎えして、第1回SSH理系女子育成プログラム及び第1回SSH校外学習プログラムを開催いたしました。SSH理系女子育成プログラムは、理系分野で活躍する女性の将来像を考える機会を設けることを目的としたプログラムで、年3回のプログラムを実施する構成となっており、今年度1回目となります。また、SSH校外学習プログラムは理系女子育成プログラム参加者以外を対象とした事業で、その都度希望者を募りながら実施します。なお、両者は同じ内容を合同で実施することになります。

昨年度に引き続き、他校の生徒と理系女子のキャリアについて考え交流する場として、八戸北高校の2年生8名が参加し、本校生徒17名と合わせ、計25名の女子生徒が参加しました。

午前には、皆川先生より八戸工業大学の概要について説明があり、工業×デザインがあるからこそ、研究テーマが多岐に渡り、理系のなかでもグラデーションがあることを簡単にご説明していただき、鮎川先生より「どうやって選ぶ？—理系の学部や仕事—」という演題で、理系学部の幅広い分野の紹介と理系女子のロールキャリアモデルの紹介をしていただきました。その後、2班に分かれ、鮎川先生より「コケですけど、何か？～コケの生物学をキャンパス内で体験～」という演題で実際のコケを採取し、顕微鏡で観察する実習を、工藤先生より「究極の省燃費に挑むエコラン競技」という演題でより燃費のよい燃料開発や、実際競技に出場する車体の見学を通してそれぞれ理工学の面白さに触れました。

午後、2グループに分かれ、太田先生より「プロジェクト実習におけるロボット製作について」という演題で、小林先生より「水溶液を分析してみよう～pH、塩分、COD～」という演題で、それぞれ学校では体験しにくい実験・実習を行いました。

活動後の生徒の振り返りでは、「女性が研究者になるのは難しくない。先生方が楽しそうに話していて研究はおもしろそうだと感じた。」「研究において、女性が不必要ということは少なく、女性にもできることはたくさんあるのだなと思った。女性研究者のおかげで、守られていた命があったのかもしれないと思った。」等の所感が寄せられました。また、「研究の第一線で活躍する女性が多くいることを知って、自分の進路や将来のことを今までよりも具体的に考えることができた。」「女性の理系の道は男性に比べて限られると思った。でも講話を聞き、女性でもできることはたくさんあるし、むしろ女性にしか出来ないこと、女性ということを活かしてできることの多さが新たな発見となりました。」等、考え方や視野が広がったという所感が寄せられました。

○プログラムの様子

